

# 日本体育大学

## 令和8年度入学者選抜 【出題の意図・模範解答】

学部・選抜方式	保健医療学部 救急医療学科 学校推薦型選抜 一般推薦
科目	小論文

### 【出題の意図】

- ・学科特性として、将来、救急救命士の専門性をどのように活かしていくかを問うものとした。(救急救命士の本質を理解しているか)
- ・「本学科入学後に修得する救急医療の知識と技術」について具体的に示せるかどうかを問うものとした。
- ・内容は、教科書を読んで学習していることを前提とし、保健体育科の教科書に掲載されている内容とした。

### 【模範解答】

不慮の事故や大規模災害は、日常生活の中で突然人々を襲い、命を奪ったり、重い障害を残したりする危険がある。実際に、交通事故や転倒事故は高齢者を中心に多く発生しており、また地震や豪雨による災害も日本各地で頻発している。こうした緊急事態において、救急医療の知識と技術を持つ人材の存在は、命を守るために極めて重要である。

私は将来、救急救命士として社会に貢献したいと考えている。本学科に入学後は、心肺蘇生法やAEDの使用、外傷処置、搬送技術など、現場で即戦力となる救急医療の技能を身につけることができると聞いている。これらの知識や技術を身につけることで、事故や災害現場において、自らが「その場においてよかった」と思われる存在になりたいと考える。

たとえば、交通事故現場で心肺停止となった傷病者に対し、迅速な胸骨圧迫とAEDによる電気ショックを行えば、助かる命をつなぐことができる。あるいは、地震によって家屋が倒壊した現場で、多数のけが人が発生した際には、トリアージの判断力や外傷への応急処置が求められる。こうした現場で冷静に判断し、確実な技術を持って行動できるのが、救急救命士である。

また、救急救命士の専門性は、災害発生時だけでなく、平時の教育活動でも活かされるべきである。地域の防災訓練や学校での応急手当講習を通じて、市民一人ひとりが自ら命を守れる力をつけることができれば、社会全体の安全性は高まる。私も将来は、現場で活動するだけでなく、地域に出て啓発活動にも積極的に関わっていきたいと考えている。

救急救命士とは、人の命に最も近いところで責任を持つ専門職である。その専門性を磨き、事故や災害の被害を最小限に抑えるために、私は本学科での学びを真剣に積み重ね、社会に信頼される救急救命士を目指したい。